

CAMD セミナー

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

非自立性の神経変性メカニズム： グリア病態からみた筋萎縮性側索硬化症

名古屋大学 環境医学研究所 病態神経科学分野

山中 宏二 教授

平成 26 年 2 月 25 日 (火) 午後 4 時 30 分～
第 1 研究棟 2 階 大会議室

運動ニューロンの選択的変性を特徴とする筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の病巣では、疾患の進行に伴ってグリア細胞の活性化や増生がみられる。

これまで、グリア細胞の病態は神経変性に伴う二次的反応という考え方が主流であった。ところが、SOD1 優性変異による遺伝性 ALS モデルマウスを用いた一連の研究から非神経細胞であるグリア細胞における病的変化が疾患の進行過程と神経変性に積極的に関与していることが明らかとなった。さらに、その鍵となる細胞群として、グリア細胞のみならず免疫系も関与することが判明した。

このように、ニューロン周囲の環境を維持するグリアなど非神経細胞が関わる「非自律性」の神経変性機序は、神経変性疾患の病態解明に新たな視点を提供するものである。本講演では、「非自律性」の神経変性メカニズムの確立とその後の研究の展開についてお話ししたい。

連絡先: 認知症先進医療開発センター
分子基盤研究部
部長 高島明彦 (内線 6331)